

妙泉寺便り

第5号
発行所
編集：妙泉寺住職
副住職
岡山市南区古新田

宗祖七三二遠忌

お会式法要

十一月十七日(日)

十八時半より本堂にて報恩大法要
十九時半より蝦名字摩・蓮津親子
津軽三味線ライヴ
二十時半より「くじ引き」抽選会



本年も「お会式（えしき）」の季節がやって参りました。

弘安五年（一二八二）の十月十三日に亡くなられた日蓮聖人のご遺徳を偲び、全国の日蓮宗寺院では十月から十一月にかけて「御報恩会式（ごほうおんえしき）」が行わ

れます。

当山でも、十一月十七日の十八時半より厳修致します。その際には毎年恒例の、ハズレ無しの「くじ引き」も行います。目玉商品も数多く用意しております。また、法要後には津軽三味線の奏者「蝦名字摩（えびなうま）」

様」をゲストに迎え、演奏会を予定しております。プロの演奏を間近で聴く千載一遇のチャンスですし、くじ引きで当たりを引く可能性も大いに御座います！是非ともご家族お揃いでお参り下さい。

えびな うま

蝦名字摩

蓮津



母娘

れつ

★プロフィール

鹿児島県・奄美大島出身。青森出身の津軽三味線の名手で蝦名流家元・蝦名伴主（えびなばんしゅ）師に津軽三味線、民謡、尺八などを学ぶ。

その後、出身地・奄美の島唄、三線を習得。関東地方を中心に民謡、三

味線大会で優勝歴多数。一昨年三月の東日本大震災以降、原発事故による放射線の影響を考慮して岡山へ自主避難。現在、演奏や指導の傍ら、夏には福島の子供た



ちを瀬戸内市に招く活動を展開中。

十一月十八日(月)

九時半より五種法師 十四時より法要

仏教には「五種法師（ごしゅほっし）」という修行が御座いますが、

- ① 受持（じゅじ） 経典を受け持つ修行。
- ② 読（どく） 経典を見ながら読む修行。
- ③ 誦（じゆ） 経典を頭に入れて読む修行。
- ④ 解説（げせつ） 経典を理解し人々に説く修行。
- ⑤ 書写（しよしゃ） 経典を書き写す修行。

内容については次の通りです。

本年は皆様と共にこの「五種法師」を行います。今回は「方便品」や「寿量品」以外に、普段あまり読む機会がない「提婆達多品」や「如来神力品」を読む予定です。

その後は自我偈・お題目の太鼓練習も行い、更に「宝塔偈」の写経も行う予定です。この機会に日頃の喧騒を忘れ、共に



仏の道を歩もうではありませんか。尚、十八日は十四時までぜんざいを接待しております。

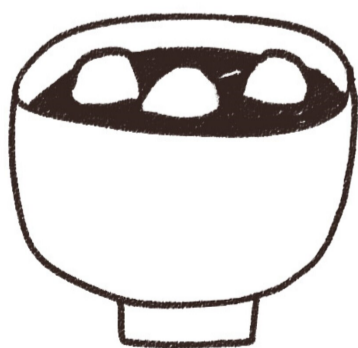
お火焚祭

十二月八日(日)
十三時半より厳修

本年は十二月八日、十三時半より当山本堂にて法要の後、十四時より境内にて「お火焚祭」を厳修致します。

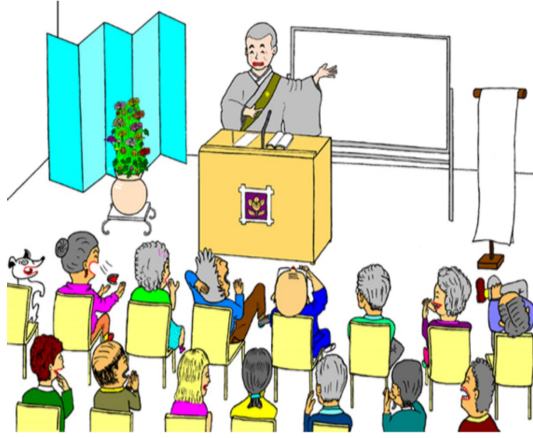


皆様の御自宅に在ります古くなった御守りや仏具、塔婆や位牌などを供養する意味で、盛大に焚き上げさせていただきます。更に十一月十八日同様、「ぜんざい接待」を行い、来山されました方々に召し上がって頂きますので、ご家族お揃いでお参り下さい。
※お持ち頂く仏具等は、紙製や木製等の燃える物に限らせて頂きます。ぬいぐるみ・鳴り物・陶器



三車火宅の喩

類・銅製品等のご遠慮下さい。
さんしゃかたくのたとえ
私たちが普段読んでお
ります「法華経」には七
つの喩え話があります。
今回はその内の一つ



『妙法蓮華経比喩品第三』
に登場する「三車火宅の

喩」について解説致しま
す。

ある所に長者が居まし
た。長者の家はとても大
きいのですが、壁が崩れ
ていたり、柱が傾いたり
と、かなり劣化していま
す。そして出入り口は小
さな門が一つあるだけだ
けでした。

ある日、長者が外へ出
ている時に、家が火事に
なりました。火事と聞いて
長者が家に帰ってみる
と、燃えさかる家の中

は長者の子供たちが今に
も火に焼かれそうになり
ながらも遊んでいるでは
ありませんか。子供たち
の傍では狼や熊などがお
互いに喰らいあつていた
り、また悪虫や毒蛇が地
面を這いずり回っていた
りという有様なのに、子
供たちは身の危険にも気
づかず遊び惚けているの
です。

「おーい、早く外へ出
なさい！そこにいると焼
け死んでしまうよ！」と
叫んでも、子供たちは耳
を貸しません。「いつそ
力任せに全員を台車に乗
せて運び出そうか」とも
考えますが「いや、それ
では暴れて落ちて焼け死
ぬ子が出るかもしれない。
どうやったら全員無傷で
救い出せるだろうか」と
考えます。

すると長者は、子供た
ちは以前から三つの車が
欲しがっていた事を思い
出し、子供たちに向つて
叫びます。

「おーい、お前たちが
以前から欲しがっていた
羊の車・鹿の車・牛の車
があるぞ！早く外へおい
で！」それを聞いた子供

たちは、一目散に門から
出て、大喜びで長者の前
に行きました。

そのとき長者は子供た
ちに欲しがっていた羊の
車・鹿の車・牛の車では
なく、それよりもっと
価値のある「大白牛車
(だいびやくごしや)」
を与え、子供たちは大喜
びで『大白牛車』で遊ん
だのでした。



こうして子供たちは今
にも燃え落ちそうな火宅

を逃れて、安穏な世界に
至ることが出来たのです。

長者は「お釈迦様」、
子供たちは「私たち衆生」、
燃えさかる家は私たちが
住む「娑婆世界」を、そ
して大白牛車は「法華経」
の意味しています。

この「燃えさかる」状
況、現代社会の状況を表
していると思いませんか？

環境問題にしても、犯罪
の増加にしても、身の回
りには危険が沢山あるの
に「自分だけは大丈夫、
まだまだ平気」と思って
いないでしょうか？

先日テレビで「たとえ
危険が迫っていても、周
りに大勢人がいると、意
外と危険回避に動き出す
のに時間が掛かる」とい
う実験をしていました。

「少し変だな」と思って
も、周りの人々が動き出
さないと行動に移らない
ということが実験で明ら
かにされていました。

そんな私たちをお釈迦
様は「一人残らず救うに
はどうしたらよいか」と
考えられ「子供たちがい
つも欲しがっていたもの
をあげよう」と「方便」
をとられたのです。

ただし、お釈迦様は子
供たちの欲しがっていた
ものではなく、もっと限
りなく価値のあるものを
与えられたのです。

私たちは目の前の状況
や欲望に捕われると、周
りの忠告や危険を見落し
てしまいます。そんな時
こそ、お釈迦様が「比喩
品第三」で説かれた『三

車火宅の喩』を思い出し
て行動したいものですね。

皆さんも和讃を 始めてみませんか？

わさん
当山では毎月一日と十
八日の十五時頃、また昼
間に来られない方の為に
隔週土曜日の十九時半よ
り、お釈迦様・日蓮聖人・
先師の御遺徳を偲ぶ歌で、
団扇太鼓を叩いて囃子を
刻みながら歌う「和讃」
の稽古を行っております。

年に数回、田町の蓮昌
寺での研修や講習会も開
催されますし、県内の和
讃の集いも年に一度行わ
れ、県外での全国大会も
開催されています。

また岡山県の大会があ
れば、県内寺院の和讃会



の方々も大勢参加されま
す。

歌が好きな方や興味あ
る方、和讃で団扇太鼓を
叩いてみたい方等々、見
学も大歓迎ですので、是
非ともお一人でも多くの
参加をお待ちしております。

お問い合わせ、お申し



編集後記

お会式が近づくにつれ
て、毎年十一月十八日は
何をしようか悩んでおり
ますが、今年は平日とい
うこともあり、妙本寺万
灯講の皆様も来山が難し
いということで、考えた
末に「普段しないことを
しよう」ということにな
りました。今回の太鼓練
習や写経は私たちも楽し
みにしております。

皆様の中で「お寺でこ
んなことをしてみても？」
というアイデアがありま
したら何なりと仰つて下
さい。

